

『先人未踏』

誰も成し遂げられなかったことをしたい。
そのエネルギーが、人間を支える。

人がやらないことをしよう。

P PED BITS



佐谷宣昭 Nobuaki Satani

1972年生まれ。九州大学工学部建築学科卒業。2000年九州大学大学院人間環境学研究科博士課程修了、博士（人間環境学）。翌月起業。株式会社パイプドビッツ社長CEO。明日の豊かな情報生活に貢献したいとの想いから、「情報資産の銀行」の必要性を説く。官公庁や都市銀行、小売業など3067の事業者に情報資産プラットフォーム「スパイラル(R)」を提供中。

株式会社パイプドビッツ
東京都港区赤坂2丁目9番11号
03-5575-6601(代表) <http://www.pi-pe.co.jp/>

インターネットの強みは非同期コミュニケーションだ。僕は僕の都合で送るから、相手は相手の都合で読んでくれればいい。時間を共有しなくとも連絡できるから相手の仕事の邪魔をしなくて済む。電話とは違う便利さを手に入れたはずだった。

しかし、自律する力に乏しく仲間との連帯に支配されがちな子供社会は、いつしか仲間に同時性を強要するようになつた。いつ返信しても良いところを、すぐに返信することが仲間への忠誠心として評価されるのだろう。返信が遅い、つまり忠誠心の低いメンバーは仲間はずれになる。さらにインターネットは場所を選ばないから、子供たちは家の中の時間まで支配されることになる。逃げ場所を失った子供の気持ちを想像すると胸が痛む。

たとえば包丁が武器になるように、いかなる道具も意図どおりに使われるとは限らない。箸に作法があるように、ネットにもそろそろ作法が必要なのだと思う。

5年前はケータイ片手にメールが定番だったが、現在の定番は「LINE(ライン)」だ。2年半ほど前に美濃に寄稿した第2回のコラムを思い出した。国内で1日に40億通ものメールが流通し、ケータイメールをチェックしながら歩いていた子供が交通事故にあり、流通数の7、8割を占める迷惑メールが10年後には GDPの1%（約5兆円）もの経済損失を与える可能性があるとの研究成果を紹介した。

そのコラムの寄稿後、今から2年と少し前にサービスを提供し始めたばかりのLINEのユーチャーが7月21日に2億人を突破したそうだ。国内ユーチャーは4千5百万人超だと言われている。5年前の小中学生が1日に10通から50通程度の携帯メールを送受信していたそうなので、仮に1日平均10通だとしても、現在は国内のLINE上で1日に4億5千万通ものメッセージがやりとりされていることになる。

このように急速に普及を続けるLINEだが、最近では「LINE疲れ」や「LINEいじめ」が指摘されるようになってきた。LINEの会話をうまく止める方法を教えてほしいという相談も増えているそうだ。「既読」表示機能が返信を強要するのだとか。

そういうえば、似たような問題はケータイメールの時代にもあった。子供たちの間で3分以内にメールの返事をしないと失礼だという常識？ がつくられ、暗に頻繁なメールチェックが強要されていた。3分ルールと呼ばれていた。ケータイメールもLINEも問題の本質は変わらない。5年前はケータイ片手にメールが定番だったが、現在の定番は「LINE(ライン)」だ。2年半ほど前に美濃に寄稿した第2回のコラムを思い出した。国内で1日に40億通ものメールが流通し、ケータイメールをチェックしながら歩いていた子供が交通事故にあり、流通数の7、8割を占める迷惑メールが10年後には GDPの1%（約5兆円）もの経済損失を与える可能性があるとの研究成果を紹介した。

そのコラムの寄稿後、今から2年と少し前にサービスを提供し始めたばかりのLINEのユーチャーが7月21日に2億人を突破したそうだ。国内ユーチャーは4千5百万人超だと言われている。5年前の小中学生が1日に10通から50通程度の携帯メールを送受信していたそうなので、仮に1日平均10通だとしても、現在は国内のLINE上で1日に4億5千万通ものメッセージがやりとりされていることになる。

このように急速に普及を続けるLINEだが、最近では「LINE疲れ」や「LINEいじめ」が指摘されるようになってきた。LINEの会話をうまく止める方法を教えてほしいという相談も増えているそうだ。「既読」表示機能が返信を強要するのだとか。

そういうえば、似たような問題はケータイメールの時代にもあった。子供たちの間で3分以内にメールの返事をしないと失礼だという常識？ がつくられ、暗に頻繁なメールチェックが強要されていた。3分ルールと呼ばれていた。ケータイメールもLINEも問題の本質は変わらない。

『ネットの作法』